

(3) - 7) G 事業所事例

特徴：大規模工場が隣接した工業団地内にある事業所が地域との説明会を持つ例。
大規模工場が隣接した工業団地内にあるこの事業所は地域との説明会を持つにあたり、所在の工業団地管理組織と相談し、地域住民の範囲を決め、事業所のオープンハウスという形態をとり、その中で、事業所施設の見学や、環境・安全の取り組みという説明の場を持っている。事業所の環境安全への取り組み等を参加者へのヒアリングの形で評価もしている。また、別にこの工場団地では常設の環境委員会、安全委員会などがあり、企業間の情報交換を行っている。

従業員規模 : 100人 500人。

周囲の状況(立地): 工業団地。周辺は第一次産業、住居。

操業経過年数 : 25年以内。

PRTR 取扱最大量の物質: 年間1,000トン以内のPRTR対象物質の取り扱い有り。

環境・安全等のマネジメントシステムの有無: 有り。

- 1 対話開始時期: 平成10年
- 2 きっかけ: 工業団地全体への環境クレームが寄せられた。
- 3 名称の有無: 無し。

対話の場の位置付け : 環境安全方針の周知の場であり、企業活動として重要。

- 1 事業所側出席者 : 事業所長、総務、生産技術
- 2 地域住民側出席者: 自治会執行部、地域振興会執行部、学校関係又は一般住民
- 3 その他出席者 : 無し。
- 1 事業所が地域住民と認識する範囲: 周辺の約2,000世帯
- 2 事業所の所在地の最小行政の範囲: 市で約20,000世帯

実施方法: オープンハウスの形態

- 1 頻度: 年1回弱
- 2 場所: 事業所会議室(見学込み)
- 3 時期: 秋頃
- 4 日時: 平日昼間(操業中)
- 5 議題: 事業概要、環境安全の取り組み

化学物質情報提供の工夫: 特に無し。

対話の場のメリット: 環境安全取り組み姿勢の評価。

対話の場の難点 : 役員以外の参画が積極的ではないこと。

住民の声 : オープンハウスのヒアリングという形で事業所への声。

改善への課題 : 事業所の環境負荷の低減